

# 根子岳・佐渡山・鍋倉山 山スキー

T野

2024年2月10日-12日

メンバー： T野・I崎・A原・Y科・R佛・K林・T山・T中m・S田石J・S木・N山k（お試し）・K尻（会員外）

この時期恒例で訪れている妙高の宿が無事ゲットできたので、この3連休はここをベースに山スキーを楽しんだ。現地合流予定の富山の山友のK尻が2/10の夕方からの合流となったので、初日の2/10は好天が見込まれていたため、景色の良い根子岳の北西斜面を滑り、2/11は2/10の夜にまとまった雪が降り、妙高方面の予報が悪かったため、パウダーが期待できてまずまずの予報がでている佐渡山の東面に、そして2/12は年に一度は滑りたいブナの回廊、鍋倉山の森へと大勢でワイワイやってきた。

雪不足の今年にしてはどこも良いパウダーが迎えてくれて、快適に楽しく滑ることができた。では、報告です。

## 2/10 根子岳



2/9夜、3台に便乗して東京を出発。「道の駅雷電クルミの郷」で仮眠。2/10はコンビニで朝食、菅平の奥ダボススキー場へ向かう。リフトは8:30から運転、早く着き過ぎたのでマッタリ過ごす。今年の奥ダボススキー場は、根子岳へのキャットスキーは運休ということで、少しは山らしさを感じることができそうだ。リフトを降りると早くも北アルプスの銀屏風！！絶景が広がる。見慣れた景色だが何度見ても素晴らしい！！ゲレンデのような斜面を緩々と登って行くが、これがダラダラと単調で、景色は良いのだがいつも長く感じるころだ。避難小屋のところで休憩、これもいつものことだ。登るにつれ、北信・妙高方面も望めクリアな景色に心が躍る。さらに目を転じれば、中央アや八ヶ岳、美ヶ原の後方には南アの北岳と仙丈岳、甲斐駒ヶ岳も顔を出す。

■写真上 リフト降りればすでに銀屏風の北アがお出迎え。

■写真下 絶好の登山日和！！





山頂まで登ると今まで見えていなかった四阿山や志賀高原の山々、さらに、時折激しく噴煙を上げる浅間山、さらに奥の方には雲の上に富士山も浮かんでいる。つまり、見えるべき山は全て見渡せる良き日なのだ。風も弱く、山頂でものんびり憩うことができ、厳冬の根子岳では珍しい。充分景色を堪能させてもらうことにする。

さて、ここ数年、根子岳の滑降といえば北西斜面にハマっている。何といたっても日が当たりづらく良い雪がキープされているというのが最大の理由、さらに、善光寺平に向かって開けているオープンバーンのロケーションも最高なのだ。



■写真上 妙高・火打・焼・黒姫・乙妻の大パノラマ!!

■写真中 根子岳山頂!!

■写真下 滑降した北西斜面にて!!

ということで、山頂から滑降開始。最初は、できるだけ標高を下げずに小根子岳を回り込んで北西面のオープンにできれば、あとは黒姫山に向かって板を走



らせればよい。開けた雪質の良い緩斜面は、初級者でも快適に板を滑らせることができ、まるでスキーが旨くなったかのように感じるであろう。標高を下げるにつれ、笹が顔を出して邪魔をするが、これも想



定内のレベルだ。ただ、今年は雪が少なく、先日の南岸低気圧の大雪でかなり埋まったのでは、と期待していたのだが、まだまだ雪の量が足りないようで標高を下げると結構鬱陶しくなってきたので1690m付近で滑降終了し、スキー場に戻ることにする。

■写真上 宿宴会

■写真下 佐渡山登山口の霧氷。

その際、ほんの少しシールで登り返せば楽に滑って戻れると思いきや、思いシールを貼って登り出したのだが、他のメンバーはシール

を貼らずにトラバースで戻る方をチョイスしたようで登ってくるメンバーはいなかった。まあ、どちらもそうは変わらないだろうと判断してパーティーを分断させてしまったのだが、結果として、トラバースのメンバーもパーティーが分断してしまい、スキー場のベースで心配しながら長時間待つことになった。これは、リーダーとしては猛省すべきである。各自に行動を任せず、もう少し強いリーダーシップで引率すべきであった。特に大人数で行動しているときはなおさらだ。大事にはならなかったが、インシデントも数を重ねると、いつかホントに重大な事故が発生するので気をつけねばならない。油断は禁物である。

さて、気を取り直して温泉へ、須坂にある「湯っ蔵んど」¥700。露天もあり広くてお薦めの温泉だ。結局、食事もここで済まして妙高の宿へ。K尻と無事合流！！宿ではいつもの時間が流れる。毎週のように顔を合わせているメンバーもいて、何か家族のように思えることがあるのは僕だけかもしれないが、毎週末のようにデジャブーを経験しているのである。

#### ■コースタイム

リフトトップ (8:50) ~ (9:23) 避難小屋 (9:35) ~ (11:09) 根子岳 (11:25) ~ (12:40) ダボススキー場ベース

## 2/11 佐渡山



目覚めると、意外にも雪が降り積もっていた。30 cmくらいは降ったようだ。予報を見ると新潟県は終日雪模様のような。三田原山も考えたが、上部は標高も高く、オープンスロープなので下手をするとホワイトアウトになっているかもしれない。それに比べて長野県の予報は回復傾向のようである。雪も降ったことだし、佐渡山の東斜面ならパウダーが溜まっているかもしれない！！ということで、今日は佐渡山に向かう。いつもの



ようにコンビニで朝食を採り大橋へ。何とか車3台駐車スペースを確保。準備して歩き出す。佐渡山は乙妻方面に行くトレースで鞍部まで登り佐渡山を目指すルートと、途中の尾根に取付いて直接登るルート2つがあるが、トレースが付いているなら直接登るルートの方が早い。今回もトレースがあったので直接尾根に取付き楽をさせてもらう。下部は藪っぽい雑木林だが、登るにつれ、好ましいブナ林になってくる。天気も回復傾向で、黒姫や小黑姫が名前の通り黒々としたボリュームのある山容を横たえ、よく見ると黒姫山頂から白い帯が一本落ちている。これが山スキーヤーの世界では多少は知られた「七つ池シュート」だ。ノートレースで雪崩の心配がなければ、爽快な滑降が楽しめるルートだ。一方、妙高方面の山はどんよりとした雲に覆われて姿を現すことはなく、ちょうどこの辺りが晴れのギリギリ境界線のようなのだ。そう考えると、どうやら今日、佐渡山を選んだのは良いジャッジだったようである。やや長い尾根の突端にあるかわいいピークが佐渡山山頂だ。

■写真上 美しいダケカンバの木と黒姫山。

■写真中 だ、だれた！この滑り！！ひょっとしてmさん？

■写真下 超快適！！

いよいよ滑降、東斜面



に飛び込む。最初は藪が多く、ホントに行けるのか不安になるが、少し降りると秘密のブナの疎林が広がっている。標高差で約 250m、それほど大きな斜面ではないが、雪質も傾斜も申し分なく、快適なパウダーの森を雄叫び上げて落ちていく。あまりの快適さに途中で写真を撮るのももどかしく一気に滑り切ってしまった。至福の時間であった。後方を見るとメンバーも皆、この斜面を堪能して滑ってくる。見事、当てましたね！！



■写真上 快適な滑降を終えて満足満足。

■写真下 温泉の後は戸隠ソバ、美味なり！！

さて、1738mピークに登り返した。静かな森のフカフカの雪をラッセルするのは嫌いではない。とは言いつつ、体力抜群の I 崎さんがガンガン行くので、ほとんどはお任せすることにして楽をさせてもらう。1738mピークからも、もう 1 回お楽しみがある。こっちは標高差約 200m、あっという間に終わってしまうが、

先程同様快適斜面で天国を味わう。ここを降りれば、あとは消化試合、いかに効率よくルートを探して漕がないようにするのが大事である。今回は上手くルート取りできて、ほとんど漕がずに夏道に合流して後はボブスレー！！大橋まではあっという間、今日も楽しかった！！

### ■コースタイム

大橋 (8:05) ~ (8:35) 黒姫分岐 (8:45) ~ (9:52) 1673m (10:03) ~ (10:47) 佐渡山 (11:12) ~ (11:33) 1560m付近 (11:55) ~ (12:25) 1738m峰 (12:54) ~ (13:52) 大橋

## 2/12 鍋倉山

最終日は大好きな山、鍋倉山で締めることとする。ここは僕にとっては年に一度は来たくなる希少な山である。何がそんなに良かった？

まずはブナの疎林の美しさ、それに、行けばたいてい見ることができるブナの梢全面に咲き誇る満開の氷結の花また花(?) 鍋倉山はすぐ下に千曲川が流れているからか、水蒸気の上昇気流が起きやすく、こういう霧氷が発達しやすいようだ・・・たぶん。そして最後に、北面に広がる雪質の良いブナの疎林、鍋倉山は今や、超メジャーな山で多くのスキーヤーで賑わう



が、それでもキャパが広いので、うまく探せばノートラックのパウダー斜面がだいたい見つかるのも良いところだ。さて、この雪不足のシーズン、果たしてうまく楽しめるだろうか？

登山口の温井に着くとすでに20台以上の車が路肩に駐車していた。相変わらず超人気の山である。それにしても2月とは思えない少雪である。普段ならこの時期、バンバンショートカットして登って行けるのだが、藪も多く、今年はそうはいかない。ただ、ルートを選べば特に問題があるわけではなく快適に登って行ける。田茂木池の台地に上がり、いよいよ鍋倉山に取付くが、T山さんはしきりに登路を尾根に採りたがっている。一方、僕は下からルート状況が観察できる西の沢ルートが好みだ。今回はリーダー特権で西の沢ルートに登る。山懐に入るに従い、粒ぞろいのブナの疎林となっていく。何回来ても癒される景色である。さらに登ると、冒頭のブナの梢全体が氷結した満開の花！！これが青空に映えて美しいのなんのって！！少雪の今シーズンも鍋倉山は期待を裏切らない。

■写真上 鍋倉のブナの森で憩う。

■写真中 素晴らしい！！

■写真下 もうすぐ稜線！！

黒倉山と鍋倉山の鞍部にできれば山頂までもう一息だ。山頂は、いつもこの時期は木がほとんど埋まっているが、今年はまだ埋まりきっておらずモジャモジャした樹林が顔を

出していた。さて、今日の天気はというと、千曲川方面は視界も良く展望が開けていたが、妙



高方面は厚く雲が垂れ込め山々は雲の中である。今日も、この辺りが好天と悪天の境界線のような。穏やかな山頂で準備してまずは北斜面を標高差約 200m 落とす。3 連休の 3 日目ということもあり、ほとんどノートラックは残っていなかったが、重箱の隅を突つく様にノートラックを探す。まあまあいいパウダーが楽しめたので、当然のようにもう 1 回おかわりする。

再びシールを貼って山頂へ。2 本目は、東に向け少し尾根を滑った後、北斜面に約 250m 落とす。これが当たった！！完全なノートラック、傾斜も雪質も最高！！雄叫び爆発！！いやぁー気持ち良かった！！これが鍋倉山の真骨頂だ。滑り終わって満足感に浸って休んでいると T 中 m さんが、「まさか、もう登り返さないよねー！！」と僕の顔を伺う。「ハイ、今日はこれで終わりです。」という「当然じゃ！！」と振り返り、自分の居場所に戻って行った。



■写真上 稜線を歩く。

■写真中 鍋倉山山頂！！

■写真下 最高のロケーション！！

その後も楽しい滑降で広い雪原を滑り、林道に合流してからはおとなしく林道を滑るが、板が走ってほとんど漕がずに温泉まで滑って行くことができた。いつものショートカットル



ートは田茂木池付近が結構漕ぎが入って鬱陶しいので今日のルートの方が快適なような気がした。

鍋倉山は期待にたがわず今日も満足、来て良かった！！

いつもの事ですが一緒に滑ったメンバーには感謝！！今回も有難うございました！！

■コースタイム

温井 (8:00) ~

(10:49) 鍋倉山

(11:15) ~北面滑降~

(11:24) 1105m付近

(11:36) ~ (12:18) 鍋

倉山 (12:26) ~

(13:25) 温井